

第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 会議録

1. 開催日時 令和7年9月22日（月） 15時30分～17時00分
2. 会 場 軽井沢町中央公民館 講義室
3. 出席者 委員：荒井 英治郎委員、三和 秀平委員、木村 泰子委員、
西郷 孝彦委員、飯澤 幸世委員、今村 久美委員、
西野 博之委員、岡田 敏之委員、一色 保典委員、
唐沢 浩一氏（代理）、臼田 瑞希氏（代理）、
上原 浩子委員、山崎 伸一委員、久保 貴史委員、
諸星 ひとみ委員、岩崎 ひとみ委員
事務局：宮本 隆教育長、内堀 繁利アドバイザー、岩井 和成課長、
金井 章宏課長補佐、金井 拓也係長、
学校教育係職員 堀本 淳子
軽井沢高校・教育魅力化推進係職員 根津 彩香、桐野 耕介
4. 議 題 （1）第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議
のまとめ
（2）「私たちの学校」をつくるアンケートについて（保護者対象）
（3）「私たちの学校」をつくるワークショップについて
（4）設置場所について
（5）スクールコンセプトについて
（6）その他
5. 傍聴人数 35名

6. 議事内容

● 1. 開 会

【岩井こども教育課長】

定刻となりましたので、ただいまより第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を開催いたします。

先ほど開催いたしました「私たちの学校」づくり 軽井沢フォーラム 2025 にご参加いただきました委員の皆様におかれましては、大変ありがとうございました。

とても有意義な開催となりました。

第1部のクロストークにつきましては、録画したものを準備出来次第、町のホームページにて公開いたします。

また、ワークショップで皆様から頂いた意見につきましても、軽井沢オープンドアスクール（仮称）への取組みに反映させることはもとより、既存の小中学校へも共有をし、取組みについて、学校長とも協議を進めてまいります。

本日も限られた時間の中で、委員の皆様からの忌憚のないご意見を伺えればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以降は、着座にて失礼します。

会議に先立ちまして事務局よりお願いがございます。

これまでの会議と同様に、対面及びオンラインの併用とさせていただき、原則として、事業名にもあるとおり「オープン」＝「公開」とさせていただきます。

また、フォーラムに引続きメディア等の関係者、傍聴者も多数おられますが、途中での入退場を含め自由とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

この会議は事務局において録音・撮影を行い、後日、議事録の形で町のホームページ等に掲載させていただきますので、重ねてご了承ください。

なお、傍聴人の方で、写真等 NG の方は事務局までご連絡ください。

● 2. 教育長挨拶

【岩井こども教育課長】

それでは次第により進めさせていただきます。

初めに、軽井沢町教育委員会教育長であります宮本隆より挨拶申し上げます。

【宮本教育長】

皆さんこんにちは。

本日は、多くの委員の皆様にはフォーラムのほうからご参加いただきありがとうございます。

また、本日は非常に多くの傍聴者の方のご参加をありがとうございます。

フォーラムの方へ出ていただいた皆様は、感想などを紙やフォームでいただきますようお願いいたします。

また、第1部では荒井座長をはじめ、木村委員、西野委員、アドバイザー、ありがとうございます。

フォーラムの開会の言葉でも申しましたとおり、2026年にも、もう1度か2度、フォーラムを開催したいと思っておりますので、今日登壇されなかった委員の皆様にも来ていただいて、ご登壇いただきお話しいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は次第にもありますように、前回報告した児童生徒へのアンケート結果に続きまして、保護者へのアンケート結果についてという部分と、各学校等で実施しているワークショップの実施状況を報告いたします。

ワークショップは2学期にも行われますので、ワークショップの結果(の詳細)については、その後にご報告させていただきたいと思っております。

これらの取り組みを受けて、できる取り組みがどんなことかということも、町として具体的に(検討し、)進めていければと思っています。

本日は、通常よりも30分短い会議時間でございますけれども、様々な側面からご意見をいただければと思っています。

よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 3. 座長挨拶

【岩井こども教育課長】

続きまして、荒井座長より挨拶をお願いいたします。

【荒井座長】

座長を拝命しております、信州大学の荒井でございます。

今日もよろしくお願いします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

本日の会議は、本田委員、福本委員、本城委員から欠席のご連絡をいただいております。

また、長野県教育委員会 義務教育課 藤木課長様の代理出席といたしまして、唐沢主幹指導主事、同じく長野県教育委員会 心の支援課 向井課長様の代理出席といたしまして臼田主任指導主事のご参加をいただいております。

なお、今回、オンラインでは今までも参加いただいておりますが、こちらの会議に今村委員が初めて出席しておりますので、一言挨拶いただければと思います。

【今村委員】

初めましての方も大変多くいらっしゃるんですけども、ご挨拶が遅れました。

カタリバという団体を運営してきました、今村と申します。

私もこれまで子供の支援の活動をしてきて、今年で24年目になります。

昨今の、不登校の子がすごく増えてきているということを社会としてどう受け止めるかは重要だと考えていて、この会議がプロセスを全部オープンにして、たくさんの方と、中からも外からも様々な方と議論を重ねて、その途中途中のところに町民の方もこうやってご参加いただけるっていうあり方自体、教育が新しくなっていくその作り方の部分の可能性に満ちていて、私もすごく素敵だなと思って勉強させていただいております。

今日は楽しんで参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 4. 議 事

(1) 第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

【岩井こども教育課長】

それでは議題に移ります。

これより先は、設置準備会議要綱第4条第2項により、荒井座長におきまして進行をお願いいたします。

【荒井座長】

それでは私の方で進めさせていただきます。

議題は6つです。

(1) 第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめということで、事務局から報告願います。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

それでは事務局の方より説明をいたします。

お手元の【資料1】、ページ数2ページをお願いいたします。

第3回軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議まとめになります。

日時：令和7年7月14日（月）

会場：軽井沢発地市庭 イベントスペース

出席者、欠席者、事務局等については記載のとおりでございます。

第3回目の会議事項：(1) 第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ、(2)「私たちの学校」をつくるアンケートについて、(3)「私たちの学校」をつくるワークショップについて、(4) 夜間中学について、(5) 設置場所について、(6) その他ということで協議が行われました。

下段をお願いいたします。

(1) 第2回オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめについては、質問意見等ございませんでした。

(2)「私たちの学校」をつくるアンケートへの意見等につきましては、記載のとおりでございます。

お時間がある時にご覧いただければと思います。

裏面をお願いします。

(3)「私たちの学校」をつくるワークショップについての意見、質問については記載のとおりになります。

同じく（４）夜間中学についても同様になります。
お時間がある時にご確認いただければと思います。

（５）設置場所について、本日の議題にも上がっておりますけれども、委員の皆様からこのような意見をいただきました。

（６）その他につきましては、アンケートの集計結果の中で比較がしやすいように、パーセンテージを入れてみてはいかがでしょうか。ということで、これらの意見は反映させていただいております。

本日、第４回目の会議ということで、軽井沢町中央公民館での開催となります。
まとめにつきましては以上です。

【荒井座長】

ありがとうございました。

報告いただきましたまとめについて、ご意見等、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

● (2)「私たちの学校」をつくるアンケートについて

【荒井座長】

それでは次に進みます。

(2)「私たちの学校」をつくるアンケートについて、事務局から報告をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

引き続き金井です。

よろしくお願いいたします。

【資料2－1】、ページ番号4ページになります。

よろしくお願いいたします。

資料4ページなんですけれども、保護者の皆様を対象とした、「私たちの学校」をつくるアンケートの概要となります。

改めて、このアンケートの回答にご協力いただきました保護者の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

1 趣旨から4 期間については資料のとおりでございます。

5 対象につきましては、東部小学校、中部小学校、西部小学校の全校児童軽井沢中学校の全校生徒の保護者を対象に実施いたしました。

人数は資料に記載のとおりでございます。

保護者の人数と児童生徒の人数は一致しておりません。

複数の児童生徒がいる場合は、児童生徒ごとの回答を依頼しているため、上記の人数および次のページの7 回収率は、児童生徒数で計算しております。

次のページ、5ページをお願いいたします。

6 回答者数から8 留意事項については資料のとおりでございます。

9 集計結果については、6ページ以降をご覧くださいだと思います。

説明いたします。

問1 お子様の学校を教えてください。

問2 お子様の学年を教えてください。

以上2項目につきましては、記載しておりません。

問3から問6までは、児童生徒向けアンケートと同様、回答は複数回答可能としております。

6 ページ、【資料 2－2】は、3 小学校全体としての回答となります。

まず、問 3 の質問に対する回答結果になります。

中段をごらんください。

回答に占める割合が最も多かったのは、「もの」の項目のうち、「授業や学習」で 103 人、回答全体の 4 分の 1 近くを占めておりました。

内容としましては、自分のペースで学べる授業や、それをサポートする人についての要望が多く見受けられました。

次いで割合が大きかったものは、「こと」の項目のうち、「行事」に関わるものでした。49 名でした。

7 ページをお願いいたします。

内容としましては、運動会の充実等の要望が見られました。

続いて、8 ページをお願いいたします。

問 4 の質問に対する回答結果でございます。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「こと」の項目のうち、「学校文化や学校風土」で 43 名でした。

9 ページをお願いいたします。

内容としましては、皆が同じことをしなければならない雰囲気についての回答が多く見受けられました。

再度 8 ページをお願いいたします。

次いで割合が大きかったものは、「もの」の項目のうち、「学習① 授業のあり方」について、30 名でした。

内容としましては、ずっと座って話を聞く、ノートを取るだけの授業についての回答が多く見受けられました。

10 ページをお願いいたします。

問 5 の質問に対する回答結果です。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「こんなこと（機会）があると良い」で、46 人。回答全体の 3 分の 1 以上を占めていました。

内容としましては、交流の機会や自然との関わりについての意見が多く見受けられました。

次いで割合が大きかったのは、「学校づくり全体」で、32 名でした。

11 ページをお願いいたします。

内容としましては、保護者の学校の活動への参加や協力についての意見等が見受けられました。

12 ページをお願いいたします。

問6の質問に対する回答結果です。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「場所」と「ツール（設備・施設）」関係で、この2項目で回答全体の半数以上を占めておりました。

「場所」では、困ったときに相談や交流できる場所。

「ツール（設備・施設）」の関係では、わからない単元や分野をもう一度学習できることについての意見が多く見受けられました。

次に、14 ページ【資料2－3】をお願いいたします。

こちらについては、軽井沢中学校での結果となります。

まず、問3の質問に対する回答結果です。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったものは、「もの」の項目のうち、「授業や学習」で30人。

内容としましては、自分のペースやレベルに合った授業についての要望が多く見受けられました。

次いで割合が大きかったのは、「こと」の項目のうち、「行事以外の校内での活動」で17人でした。

15 ページをお願いいたします。

内容としましては、交流や部活動についての要望が多く見受けられました。

次に16 ページをお願いします。

問4に対する回答結果です。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「ルール」の項目のうち、「外見について」で29人です。

内容としては、制服での登下校等、服装のルールについての回答が多く見受けられました。

次いで割合が多かったのは、「こと」の項目のうち、「学校文化や学校風土」で16名。

内容としましては、皆が同じことをしなければならない雰囲気についての回答が多く見受けられました。

資料18 ページをお願いいたします。

問5の質問に対する回答結果になります。

中段をお願いいたします。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「こんなふうに学習できると良い」で、17名でした。

内容としましては、タブレット等ICTの活用や先生の選択等についての意見等が見受けられました。

次いで割合が大きかったものは、「学校作り全体」で、15名でした。

内容としましては、登校日や登校時間を減らしていくことについての意見等が多く見受けられました。

20ページをお願いいたします。

問6の質問に対する回答結果です。

回答に占める割合が最も大きかったのは、「ツール（設備・施設）」関係で、31名でした。回答全体の約4割を占めておりました。

21ページをお願いします。

内容としましては、公共交通機関やスクールバスの充実、学習のサポートについての意見等が多く見られました。

戻ってしまって恐縮ですが、20ページをお願いします。

次いで割合が大きかったものは「場所」についてで、17人。

内容としては、各競技が行える施設の整備についての意見等が多く見受けられました。

次に22ページ【資料2-4】をお願いいたします。

教育支援センター利用者、スクールサポーター等との面談実施者の回答になります。

第3回オープンドアスクール（仮称）設置準備会議以降に意見を聞き取ることができた児童生徒の回答を赤字で追記しております。

問3「もの」の項目のうち、「授業や学習」についての要望が今回も複数寄せられております。

23ページをお願いいたします。

問4では新たに「ひと」の項目のうち、教職員についての回答がありました。

また、「時間」の項目のうち、日課についての回答も複数ありました。

24ページをお願いいたします。

問5の質問につきまして、新たに得られた回答は、「なし、特になし」、そして「無回答」と

いう結果になりました。

25 ページをお願いいたします。

問 6 では、「周囲の人との関わり」や「日課」についての意見がありました。

まだ聞き取ることができていない児童生徒に対しましては、引き続き、聞き取り調査を行ってまいります。

最後に、26 ページ【資料 2－5】をお願いいたします。

「私たちの学校」をつくるアンケート全体を通しての特徴となります。

このうち、保護者全体を通しまして、問 3 では小学校中学校共通して、「授業や学習」について、中でも自分のペースで学べる授業についての要望の占める割合が大きくなっておりました。

問 4 に関しましては、小学校では「学校文化や学校風土」、中学校では「外見」についての占める割合が大きかったものと見受けられます。

中学校では、制服が導入されていることが傾向の違いに繋がっているのではないかと考えております。

次に問 5 で、小学校では、「こんな機会があると良い」、中学校では「こんなふうに学習できると良い」の占める割合が大きかったです。

次いで割合が大きかったものが、「学校づくり全体」であるという点は、小学校・中学校とも共通しているように見受けられました。

次に問 6 は、小学校・中学校共通して「ツール（設備・施設）」が多く、中でも、学習のサポートや支援についての意見が占める割合が大きかったものと感じております。

次に、児童生徒向けアンケートと今回の保護者向けのアンケートの結果の比較になります。

まず、問 3 では、児童生徒・保護者ともに「授業や学習」についての意見、中でも自分のペースで学べる授業についての要望の占める割合が大きかったです。

また、保護者の方が、より「授業や学習」についての意見の占める割合が大きく、関心の高さがうかがえました。

一方で、「仲間と交流できる時間」、「自由な時間」や「ゆっくりできる・安心できる居場所」を占める割合は、児童生徒の方が保護者よりも大きかったです。

実際に学校で過ごしている児童生徒の実感が表れているのではないかと感じております。

次に、問 4 「学校文化や学校風土」の占める割合が、児童生徒よりも保護者の方が大きく、

関心の高さが伺えました。

また、中学校では、児童生徒・保護者ともに、「外見について」、中でも制服についての回答の占める割合が大きかったです。

問5、児童生徒・保護者ともに、「学校づくり全体」が回答で一定数を占めておりました。中でも児童生徒の意見が反映されることが共通して見受けられました。

問6です。

質問内容は児童生徒と保護者で異なっております。

どちらも、「授業や学校への悩みや意見」が一定数見られたという点では共通していたのではないかと感じております。

今回実施したアンケートの結果につきましては、引き続き教育委員会と各学校長、教頭先生とも連携しながら、学校としてすぐに対応できることの整理、そして、児童生徒へのフィードバックを進めていきたいと考えております。

また、このアンケート結果をもとにしたワークショップも先ほど教育長、課長からもありましたが、引き続き実施していきたいと、そのように感じております。

以上、説明を終わります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

まずは、アンケートにご協力をいただいた保護者の皆様に、心から感謝申し上げたいと思います。

座長として全て読ませていただいております。

小学校の保護者の方 242 名、そして中学校の保護者の方 111 名、教育支援センター等を利用されている小学生 10 人、中学校 10 人からアンケートをいただいたということで、本当にありがとうございます。

事務局から説明ありましたように、いただいたご意見を、便宜上「もの」「こと」「ひと」「時間」「ルール」「場所」「その他」でカテゴライズしています。

今後あったらいいなという部分に関しては、学びのあり方そのものに対するご意見が、存在感を持って見て取ることができます。

また、ない方がいいのではないかという部分に関しては、学校の文化や風土、先ほどのフォーラムで言うところの「空気」に関わる項目として、公式的なルール、あるいは非公式的な目に見えないルールも含めて課題感が見てとれるのではないかとはいえます。

学びの在り方については、自分なりのペースという点も傾向として出ています。

委員の皆様からのご意見をいただけたらと思いますし、何かご質問等あれば、いかがでしょうか。

【A委員】

内容もそうなんですけど、このアンケートの目的が、「軽井沢オープンドアスクール（仮称）をより魅力的な」となっていますけれども、内容を見たら、今通っている学校の課題がたくさん入っていると思うんです。

アンケートは取るけどそのまんまというのがよくあって、不信感につながるんです。こんなに意見を言ったのに、なにも聞いてくれないんだ、と。

だからやっぱり、目的とはまた別の対応になりますけど、このアンケートをもとに、特に多かった意見にはちゃんと返信や、このように考えて、こう改善したいとか、検討するとか、そういうものが必要なと思っています。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

先ほど事務局から説明がありましたが、このアンケートの受け止めと今後の取り扱いについて、もう一度説明いただけますでしょうか。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

ご意見ありがとうございます。

事務局なんですけれども、今後すぐに対応できるものであったり、まさにその回答につきましては、児童生徒にもフィードバックをしながら、学校長・管理職とも協議しながら進めていきたいとそうように思っております。

対応はさせていただくつもりで進めていきます。

ありがとうございます。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

では【B委員】お願いします。

【B委員】

今の【A委員】の質問への回答に対する質問なんですけど、フィードバックしますとおっしゃいましたが、オープンドアスクールのコンセプトのところで汲み取りますではなくて、今の学校も変えていきますというようなことの表現をされるということでしょうか。

【宮本教育長】

先ほどフォーラムでもお話ししたんですけれども、このアンケート自体が、「私たちの学校」をつくるアンケートと名付けていますので、町のオープンドアスクール（仮称）にも活用しますし、もう一つは、今の学校をどうしましょうかという、この2つの点を改革していきますというものを大枠として、全体を『『私たちの学校』づくり』と名付けてやっていますので、このアンケート自体も両方入っているというふうに考えていただければ結構です。

ですので、具体的に各学校が今後どうするかという部分と、今ここで話しているオープンドアスクール（仮称）をどう作っていくかという、両方に活用させていただくというものです。

具体的には、教育委員会も含めて、アンケートについてとかワークショップについてどう生かしたかとか、こういうふうにしますとかということは、何らかのアクションをするという予定でいます。

【B委員】

ありがとうございます。

きっとこのアンケートをとることによって、現在学校で頑張ってもらってる先生方とかが傷つくのかなと思ったりして、現実的なフィードバックが児童生徒や保護者から来たってことだと思うんですけど、その先生方を支えていきながら前向きに良くしていくということの雰囲気作りも含めてやりながら、でも変えていくということで、皆さん、子供たちや保護者の失望を生まないように盛り上げていけたらいいなと思いました。

以上です。

【荒井座長】

はい、非常に重要な点をありがとうございました。

●（３）「私たちの学校」をつくるワークショップについて

【荒井座長】

ではその点も含めて、次の【資料３－１】をご覧ください。

このような定量的なアンケートの他に、ワークショップも実施していますので、そちらの報告をいただいた後に、またご意見・ご質問等をいただこうと思います。

では、事務局の方からお願いいたします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

お願いします。事務局の根津です。

28 ページをご覧ください。

【資料３－１】ということで、「私たちの学校」をつくるワークショップについて報告をさせていただきます。

まず町内の学校についてですが、7月の第3回設置準備会以降新たに、西部小学校5年生の各学級でワークショップを実施いたしました。

いまだ実施できていない学校それから学年については、2学期に実施予定ということで考えております。

また、1学期に既に実施した学校や学年もありますけれども、そちらについても、新しい意見や前回発言しきれなかった児童生徒の発言を拾い集めるためにも、複数回の実施に向けて、今後また調整してまいりたいと思っています。

また、学校外の部分をご覧ください。

第3回設置準備会議以降に教育支援センターで8月22日に、表の下の※印の対象者のうち、児童生徒のみが参加するワークショップを実施いたしました。

こちらの※印の対象者向けのワークショップは、次回以降のあり方についても現在検討しているところで、複数回実施していく予定です。

また、本日9月22日にはフォーラムということで実施いたしましたが、フォーラムの中でもお話をしました通り、このようなフォーラムについては、来年度も計画してまいります。

これらの表にありますワークショップで出された意見等については、現在とりまとめを進めているところで、1月に開催予定の第6回設置準備会議でまとめて報告をさせていただく予定です。

ここからは29ページをご覧ください。

先ほどお伝えしました西部小学校で実施したワークショップおよび8月22日に教育支援センターで実施したワークショップについて説明をさせていただきます。

まず【資料3－2】を見ていただきますと軽井沢西部小学校のものになります。

西部小学校では学級を、「松組」「竹組」というふうに呼んでおります。

東部小学校や中部小学校、それから軽井沢中学校では「1組」「2組」という呼び方です。

西部小学校でのワークショップの詳細について、1 実施概要（1）実施日および（2）実施方法については、5年生の2学級で日にちを変えて実施いたしました。

（3）テーマについては、誰もが楽しく通える学校はどんな学校かということで、こちらはアンケートの設問等も参考にしまして学校長が設定をいたしました。

広い視点でこのようなテーマを設定した方が、より活発な意見交換ができるというふうに考えたためです。

（4）進行方法についてですが、西部小学校ではクラス会議ということで、児童主体での話し合いの形式が定着しております。

この形式については、西部小学校の方で考えたもので、児童教員等が相談して計画を立てて実施しているものです。

今回のワークショップもその形式で実施をいたしました。

出された意見については、記録係の児童が板書およびノートの方に記録をしていました。

2 意見の概要についてご覧ください。

（1）全体の意見の傾向については、選択制の授業についての意見が多い傾向にありました。

（2）クラス別の意見の傾向を見ますと、松組では授業への様々な希望が出される中で、そこから理由を深掘りする姿も見られました。

竹組では、授業以外にも設置してほしい部屋や居場所、給食についての希望等が出されました。

続いて30ページをご覧ください。

【資料3－3】になります。

8月22日のワークショップについて説明をさせていただきます。

1 実施概要（1）実施日についてですが、夏休み終盤の8月22日（金）10時から12時ごろの実施となりました。

その後希望者向けの会食の機会もありました。

（2）実施方法、（3）テーマ、（4）進行方法についてですが、「私たちの学校」をつくるアンケートの項目および結果より、職員で事前に7つのテーマを選考いたしました。

それらを、ウェブ上のルーレットに入れて、ルーレットを回して出されたテーマについて意見交換・共有を行いました。

その中で深掘りしたい部分については、さらに詳しく、個々の児童生徒に聞き取りを行いました。

(5) 参加者については、児童生徒合わせて6名で、うち5名は、日頃から教育支援センターを利用している児童生徒でした。

7月8日にワークショップを行いましたけれども、その反省を踏まえて、児童生徒のみの参加とした方が保護者の前でよりも、より本音を言いやすいのではないかというふうに考えて、このように児童生徒のみの参加といたしました。

2 話し合いの雰囲気・意見の概要についてです。

(1) 雰囲気については、フランクな場作りを意識したことで自由に意見を言い合い雰囲気になったかと思います。

また、他の参加者の意見への共感・触発された発言も見られました。

これらについては、参加した多くの児童生徒にとって馴染みのある教育支援センターを会場としたこと、また、日頃から接点のある児童生徒が集まり、さらに、日ごろから関係を築いている職員がファシリテーターを務めたことも心理的安全性ということの一つの要因であると思われました。

(2) 意見の概要ですが、在籍している学校にあったらいいと思うもの、こと、場所についての意見が多く出されました。

今の学校に抱えている印象についても、踏み込んだ発言が複数見られました。

また、既存の中学校の授業時数をもとに、軽井沢オープンドアスクール（仮称）の授業時数や学習内容についての意見も多く出されました。

最後になりますが、不登校や不登校傾向の児童生徒は、登校ができる・教育支援センターには外出できる・なかなか外出することができない等、一人ひとりの状況は様々です。

どのようにすれば、より多様な児童生徒の声を聞くことができるかを関係する方々とも相談しながら、今後もワークショップの実施を含めた「私たちの学校」づくりを進めていきたいと考えております。

以上で、「私たちの学校」をつくるワークショップについての説明を終わりにいたします。

【荒井座長】

事務局からご報告いただきました。

28 ページを改めてご覧ください。保護者向けのアンケート等が6月に実施され、それを受けて、子どもたちにも意見を聞いている流れになっています。

今後も、ワークショップ等が行われて行きます。ご報告いただいた内容の所感、今後のワー

クショップの進め方や方法について、ご意見ください。
いかがでしょうか。

【C委員】

この教育支援センターの方に（対して）言ってもいいんですか。

この 30 ページのやつは、学校に行きづらい子たちのワークショップということで、今後も数回実施予定と書かれていますけども、これ、年齢的にはみんな中学生だったのでしょうか。

教育支援センターに来ている子というのは、小学生も入っているのかということと、それから、オンラインみたいなものを使うというような計画とか、考えみたいなはないのかなというのを知りたいです。

6 名ということですが、できればもっといろんな声が聞けたらいいなと思うんですけども、その辺で、現在考えている工夫というのがあるのかというあたりをお教えてください。

【荒井座長】

ありがとうございました。

教育支援センター利用者について情報を教えていただけますでしょうか。

【堀本学校教育係員】

現在の利用者なんですけれど、17 名利用しております。

今回のワークショップなんですけど、小学生が 4 名、中学生が 2 名でした。

やはり、本当に不登校で教育支援センターにもこれないというお子さんの声を聞くことができて、そこが課題だなと思っております。

なので、今後オンラインなどをとおして話ができるといいなと思うんですが、ただ、自分の思っていることを何も繋がりのない大人に言うというのはなかなか難しくて、その関係をどうやって作ったらいいか、そしてその関係を作った後にどうやってそのオンラインに繋げていくかっていうところが、今回ワークショップをやった後の次の課題だなってということで反省として出ています。

【C委員】

軽井沢の状況がちょっとよくわかんないのでお聞きしたいんですが、例えば民間団体等のフリースクールとか、学校に行けないけど教育支援センターじゃないところには、出てこれているというようなケースとか、そういう場所があるならそことの連携みたいなのは考えられるのでしょうか。

できないんでしょうか。

【宮本教育長】

民間団体は、県外と隣の町にフリースクールがあるので、そこに通っている子については、個別にお話を聞くこともできるとは考えています。

ただ、その他に民間団体みたいなものが町の中には、具体的にはないので、大きな町ではないものですから、そんなところではなかなか難しい側面もあるので、何らかの方法で意見をもらえるように考えていきたいと思っています。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

県内外にも様々なフリースクールがありますけれども、どこにも繋がっていない子どもに対するアウトリーチのあり方は県全体の大きな課題になっています。

【D委員】

私、前回ちょっと言いましたけど、オンライン空間ではいつでもできるように準備しているので、もしメタバースの空間でやるってことが計画であれば、できるようにはしているので使ってください。

もしオンラインでやるのであれば、やはり軽井沢以外に限る必要はないのかなというふうに思っていて、こういうふうに学校に行きづらさを抱えている子どもの意見をたくさん集めることが結構大事かなと思っているので、軽井沢以外のところから集めて、何かの空間で話し合うみたいなことをすると、もっといろんな意見が聞けるのかなと思って聞いていました。

あと、アウトリーチって進んでいるんでしょうか。

家庭訪問とかをして、話をしにいくとか、そういう活動は軽井沢で行っているのでしょうか。そういったものを行っているのであれば、それとセットでいろいろできるのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

【堀本学校教育係員】

現在、職員がそれぞれのお家を伺って話をするということは、していない状態であります。

【D委員】

多分、人手的に難しいと思うんですけど、そういうことをやっていけば、それとセットで考えていくのがいいのかなと思っています。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では、【C委員】、お願いします。

【C委員】

私達が川崎で、日本で初めての公設民営の不登校の子たちのフリースペースを作ったときに、やはり声をどうやって集めようかということで我々民間のNPOが、市内に限らず、いろんな地域の方々にご協力いただいて、100名ぐらい（の声を）集めました。

それは、川崎の声だけを集めるのは無理だという判断で、そのときに協力いただいたのが不登校親の会ですね。

全国にある親の会のご協力を得て、お子さんが望んでいる「こんな場所だったら行きたい。」「こんな場所なんかつくられたら迷惑だ。」という子どもと親の声を集めて、川崎市に報告して、フリースペースを作った経緯があったので、必ずしも町内だけに限らず、不登校親の会なんかのご協力を求めてもいいのかなとちらっと思いました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

では、【A委員】からお願いいたします。

【A委員】

つまらない質問していいですか。

29ページなんですけれども、クラスの名前が「松組」「竹組」になっていて、もう1クラス増えたら「梅組」になるのでしょうか。

お寿司で一番高級なのが「松」とか、そういうふうな優劣を表現するような、高級か高級じゃないかっていう表現であって、この辺気にならない方は気になんないんだけど、僕はとても気になるので、余計なことかもしれませんが、何か理由があるならお聞かせいただきたい。

【荒井座長】

実際、アンケートの中にもそこについての違和感を表明されている回答がありました。

いかがでしょうか。【E委員】、お答えになられますか。

【E委員】

こういう質問を、私も直接いただいたことがありまして、そのとき回答できなくて、いろいろ調べてみたんです。

けれど、もう昔からと言いますか、こういうふうに来ているというところで、確かに優劣というところのご意見もいただいたりしていますが、そういうご意見もある一方で、「松」と「竹」にすごく愛着を持っている保護者もいらっしゃるって、というところが現状です。

【A委員】

これは、日本だから許されるのであって、いつも言いますが、ポリティカル・コレクトネスしないといけないと思うんです。

これから軽井沢町が、世界に向けて教育改革していくのであれば。

こういう些細な問題であっても、これ一つあるだけで後ろ指をさされる（という認識で）、そのぐらい神経を使っていった方が、僕は今後いいと思います。余計なお世話ですけども。

これを、今のような回答をしているようではちょっと厳しいかなと僕は思います。

【F 委員】

今の件で喋りたいのでよろしいでしょうか。

いや、【E 委員】わかるよ。今、めちゃくちゃきついこと言われていると思います。

これまで、地域の人もこの名前を大事にしているとか、他にもいっぱいしがらみがあると思います。

そんなときに、校長先生困らないで、まず、子どもに相談するんです。全校の子どもに、「ねえ、こんな声を聞いたんだけど、みんなどう思う。」って。

校長がそれを投げかけて、全ての子どもの言葉を聞きたいと思うんです。

だから、みんなの中で、「はいはいはい。」ってやって、一部の子しか話さないんですが、「みんな、校長、困っているんだよ。」って。

子どもたち、わかると思うんです。

「松」と「竹」と「梅」ってやっぱり値段が違うから。お寿司の値段でも違うから、子どもたちはそのことも分かっているから、そんなふうに見られる場合もあるみたいなことを、これ外部の声が入ってきているから、そういった外圧をうまく利用するのが校長だと思いますので。

だから、校長が決めることではなく、「こんなふうに言われているけどどう思う。」って、その問いに対して、こんな小さな、B5の半分ぐらいの紙でいいから、そこに自分の考えを書いてってお願いして、教室に帰ってその考えを子どもがフリーで書いて、それを集めて職員室で読んだらいいのではないのでしょうか。

そこから、次の校長の言葉が出てくると思うんです。

【荒井座長】

はい。ありがとうございます。

【E 委員】

すごく参考になりました。ありがとうございます。

【荒井座長】

それでは、戻っていきたいと思います。

【A 委員】、お願いいたします。

【A委員】

30 ページのこどもだけワークショップについて聞きたくて、2 意見の概要のところ、「今の学校に抱いている印象についても聞くことができました。」とあるんですが、さっき【木村さん】のお話（設置準備会議前にあったフォーラムの中での【木村委員】のお話）の中で、（学校が）刑務所みたいだったという話がありましたし、ぜひ、この辺の抱いている印象について、具体的にこんな印象を抱いているというのがあれば教えてください。

【荒井座長】

今、とりまとめ中かもしれませんが、いかがでしょうか。
現時点でご報告いただけることがあれば、お願いいたします。

先ほどのクラスの名前は、愛着がある方もいれば、それに苦しんでいる方もいるとするならば、誰のために何をするか、再検討の余地があると思います。

初めて可視化されたということでしたら、これを根拠に物事が進むということがあるので、前向きに捉えていただきたいと思います。

他にはいかがでしょうか。
事務局の方でいかがですか。

【堀本学校教育係員】

とにかく、「先生に従わなければいけないというイメージがある。」ということで、「先生は大人だから従わなければいけない。」という子が結構いました。

あとは、「給食を配膳するという時間は何なんだ、お弁当でもいいじゃないか。」というお子さんもいたりして、「みんながみんな同じことをしなきゃいけない、同じものを食べなきゃいけないとかやらなきゃいけない。」ということがしんどいという意見が結構ありました。

刑務所という言葉はなかったんですが、感覚としては、そういう感覚に近いようなイメージを私は捉えました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。
ではすいません、先ほどお待ちいただいた【B委員】、お願いいたします。

【B委員】

ちょっと読み飛ばしかもしれませんが、この教育支援センター利用者の保護者の声は

聞いたんでしたっけ。

また、教育支援センターに登録しているけれども、来てない子どもの保護者とか含めて、聞いているんでしょうか。

【堀本学校教育係員】

教育支援センターを利用するお子さんの保護者の方には今回聞いておりません。
なので、これからお話をお伺いしていきたいと思います。

【宮本教育長】

補足しますけれども、必ずしもその保護者とは断定できませんが、保護者の皆様の中で、28ページを見ていただけると、下から2枠、学校外の※印のところで、下記対象者へ7月8日の段階で、学校に通いづらい方をお持ちの保護者の方にお集まりいただいてお話は聞いています。

ですから、その保護者と教育支援センターの保護者が被る場合もありますし、被らない場合もあるというふうに認識しています。

【B委員】

はい、わかりました。

長期欠席を含めた学齢期の不登校のお子さんは、軽井沢町何人いますか。これも聞き逃していたら申し訳ありません。

要は、何人のうちの10人なのか、5人なのかということを知りたいということです。

【荒井座長】

ありがとうございます。

おそらく、第1回の資料に載せていただいているかと思うので、また、事務局の方で資料を出せる段階になりましたら、ご回答いただけたらと思います。

いかがでしょうか。すぐに出てきませんか。

【B委員】

私が1回目の資料を持ってきてないのは悪いんですけど、要は、ここで時間を食ってしまうと申し訳ないので意見だけ言わせていただくと、このオープンドアスクール（仮称）が設置されるにあたって、誰を対象にしたものなのかといったときに、声が上げられる人たちだけなのかと。

ここに見えてこないけれども、どこにも繋がっていない人こそ対象になるんじゃないかと思ったときに、こういったワークショップみたいなものに出てくれない方であれば、それは一人ひとりの、それがたった数人の声であっても、どこでどのように過ごしているのかということを訪問して、保護者を介して聞くだけでも、とても価値のあることだと思っています。

というのは、私自身は10年前に島根県の雲南市で教育支援センターの設置を公設民営でやってきたんですけれども、そのとき統廃合したばかりの町だったんですが、3施設あって6人しか繋がっていないという状態の教育支援センターを1つの施設にしました。

約100人いる不登校の子ども、小中学生100人の中で、6人しか繋がってなかったんですが、これをどうすれば割合を上げられるかということで、私達、公立民営で運営しながら、どうやって繋がってない子を繋ぐのか、関わるのかというところを徹底的に訪問インタビューさせてもらいました。

保護者の方々は、聞いて欲しくてしょうがないという方も多いので、聞いてくれてありがとうございますと言われながら、声を聞いています。

10年経って、今、雲南市では、不登校の子どもとアウトリーチ含めて繋がれている子が70%を超えていて、要は、取り残している子どもをいかに減らすかということが重要であって、既に繋がっている子どもにとって良い学びを提供するのが、オープンドアスクール（仮称）の役割なのか、繋がってない子たちの対象をきちっとケアするという、これのどちらなのかなんですけど、繋がってない子の選択肢になるのであれば、声を聞きに行くということはとても大切だと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

不登校界限では、アウトリーチというのは本当に難しくて、行政と繋がるということ自体、コミュニケーションを取りたくないという不信感の表明はやはりありますよね。

そこはぜひ学校外の多様な学び関係者とともに訪問するとか、いろんな方法を探っていただきたいと思っています。

また、先ほど【D委員】からもご提案いただいたメタバース、あるいはオンラインでの意見交換も、今後の学びの空間のあり方を新たに創造していくという点では、軽井沢町に限定せず実施するというのもポイントかなと思います。ぜひ、長野県教育委員会の心の支援課でも検討いただけたらなと思います。

他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

●（４）設置場所について

【荒井座長】

それでは続きまして、設置場所についてということで【資料４】をご覧ください。
事務局の方から、現状について説明をお願いします。

【宮本教育長】

それでは、【資料４－１】と書いた、31 ページをご覧くださいと思います。
上のほうに枠があって、そこに、1 設置形態と2 設置場所選定にあたっての視点とあります。
この枠の中が、第3回設置準備会議資料ということでお出しして、こんな視点で考えていきたいということをお出ししたものです。
その中で、軽井沢高校の校長先生から、軽井沢高校でどうでしょうかというお話とか、あるいは軽井沢町の植物園展示館はどうかというお話も委員の中からいただきました。

そんな意味から、元々町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）というのが、2 設置場所の選定にあたっての視点の1番にありますので、そんなところから、下の枠「3 候補地の比較」ということで、3つ出しております。

この3つの施設ですけれど、町内に詳しくない方もいらっしゃると思いますので、その次の【資料４－２】に軽井沢町の大雑把な地図をいれてあります。

この中には、北陸新幹線の青い線が横断しており、右側の方には軽井沢駅があります。

現在いるのは、真ん中の左側中軽井沢、あるいは中軽井沢駅とあり、その右側の宿泊施設の赤いマークがある、そのあたりです。

※印が軽井沢中学校の場所です。

そして、資料の中に載っている①②③が、軽井沢高校、軽井沢東部小学校、軽井沢町植物園になります。また後でご覧いただければと思います。

31 ページに戻っていただいて、この3つの施設が、一応町の方としてはこの上の視点に合致する可能性があるということでお出ししました。

全部はご説明しませんが、特に枠の真ん中あたりに書いてあります、現状で転用可能な空き教室というところに注目していただければと思いますが、軽井沢高校では現状、4教室程度はすぐに転用できそうだというお話を聞いています。

東部小学校は1学級規模の学校なんですけれども、今はいろんな形で使っていて、1教室程度空いている状態で、他は難しいという状況です。

右側の方の植物園展示館というのが、そこに記載の通り283平方メートルと小さな建物で、1つの空間になっております。

学校ではありませんので、現状で転用可能な空き教室には斜線が引いてあります。

位置から考えますと、次のページにあるように、軽井沢高校は駅の方に行く途中の国道沿い、そして②の東部小学校はちょっと入ったところにありますけども駅は近い。③の植物園は、かなり駅の方から外れているというところにあります。

31 ページに戻っていただいて、上の「設置場所の選定にあたっての視点」1から5まで見ていくと、いくつかの公共施設を見ていても、軽井沢高校のところをお借りして設置するのが、町としてはいいのかなというふうに考えております。

場所についてもですけれども、その教室をどんな形で利用していくのか、その空間をどんなふうにしていったらいいのかということについても、ご意見いただければなと思ってご提案します。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

前回、第3回でいただいたご意見を踏まえて、事務局の方で検討いただき、このような提案をさせていただいている形になります。

まずはご質問いかがでしょうか。

では、【C委員】お願いします。

【C委員】

ごめんなさい。

募集要項が頭から抜けてしまったんですが、何人の募集規模でしたっけ。

また、軽井沢高校を使うとしたら、令和7年4月1日現在で162人の子どもが通ってきているということは、高校を高校として運営していて、空いている教室でこれ（軽井沢オープンドアスクール）をやるということでしょうか。

普通に高校生と交わる、高校の中に間借りするというようなイメージでしょうか。

僕は、せっかく楽しい学校を作るなら、例えば校庭がプレイパークになるみたいな、そういう思い切り遊び場が広がるような学びの多様化学校になるのかなと勝手なイメージを持っていたんですが、併存しなきゃいけない・高校の授業で使える校庭と一緒にみたいなイメージでしょうか。

それか、軽井沢高校の中でやるとしたら、子どもたちの遊び場を別に用意できますよみたいなイメージがあるかというところはどんな感じでしょうか。

【宮本教育長】

まず、募集の人数ですけれども、基本的に夜間中学に関しては広域でという可能性もありますけれども、学びの多様化学校については、軽井沢中学が対象となりますので、1学級の3学年、人数的にはなかなか今詳しく言えませんが、1学年10人程度というふうに考えてお

ります。

それと、高校の中については、私の方から一方的に言うのもなんなんですけれども、今のところ、北校舎という部分が、高校の中でありまして、その部分が4教室程度空いているので、使わせていただければと思っています。

それ以外の部分については、具体的にはこれから検討するという段階です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

【A委員】

先ほど【西野委員】が、食事を作るのがとても効果的だったという話があったんですが（第4回設置準備会議の直前に開催したフォーラムのクロストークでの発言）、僕も学びの多様化学校を全国で何校か見てきて、既存の学校の一部を借りている場所もあるし、公民館を転用しているところとか、新しく作ったところなど、いろいろありますけれども、既存の施設を借りているところでも、必ず台所みたいなところがあります。

学校の一部を借りているところはそれができないから、コンロを持ってきて、仕方なく教室で作っているみたいなものがありました。

予算や、場所などいろいろあるんでしょうけども、工事のしやすい、柔軟性のある場所がいいのではないかと。

1つ面白かったのは、博多にあるもので、公民館をそれ（学びの多様化学校）にあてたんです。すごくいいんですよ。

畳の部屋があり、その隣に食事指導室みたいなのがあったり。

だから、うまくはまるような場所が見つかるといいですね。

いろんな条件もあると思うんですが、工事ができるかできないのかとか、校庭の一部をそういうふうに使わせるのかとか、植物園だったらそういうことができるのかなど。

予算も含めて、いろいろな意見を聞いて、将来を設計しやすい場所を、ぜひ選んでほしいなと思います。

以上です。

【G委員】

【G委員】です。

質問なんですけども、北校舎の4教室というのは、北校舎自体を独占できるのでしょうか。それとも、北校舎自体も高校が使っていて、その一部の4教室を借りるのでしょうか。

それから、分校であろうが本校であろうが、軽井沢中学校の校舎がすごく素敵でしたので、

学びの多様化学校の校舎においても、分校であったとしてもそれに相当するような環境作りはしてあげて欲しいなというのは念願としてあります。

予算的なこともあろうかと思いますが、その辺もどういうふうこれから整備されていくのかということがあります。

私、みえ四葉ヶ咲中学校に、アドバイザーとしてずっと関わっているのですが、あそこは県立ですけど、みえ夢学園高校というところの1つの校舎を借りて、校舎を改修して、そこで多様化学校を行っています。

すごく素敵な校舎になっています。

そこは、本校型として運営しており、夜間中学が併設されています。

そういうところを見ると、どれほど改修されるのか、北校舎全て使えるのかということも含めて、ちょっと教えていただければありがたいなと思います。

【荒井座長】

いかがでしょうか。事務局の方で。

【宮本教育長】

はい。私の方で答えてしまっていていいですか。

【荒井座長】

それとも、施設のフレキシブルさという面、現状ということで、【H委員】が実際のお話をされますか。

【H委員】

それでは、私の方から説明いたします。

軽井沢高校なんですが、本館の裏に北校舎があります。

北校舎は2階建てです。

本館の方は3階なんですけども、北校舎は2階建てで、北校舎にいくつか教室があるんですが、1階は美術室と、それから自習部屋と談話室があります。

本校は単位制なので、空き時間ができる関係で設置しています。

2階は全部空いています。

2つの教室と、突き当たりの部屋ということで3部屋。

次回、軽井沢高校が会場になるので見ていただければと思いますが、昔の英語研究室とLL教室という感じで、今いくつかの教室が空いている状況です。

あとは、軽井沢町の財力にお願いしまして、素敵な教室にしていいただければと思いますし、北校舎は樹木が植えてありますので、高校生の視線からほどよく隠れるという、そういう状況です。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では、まず【F 委員】からお願いします。

【F 委員】

はい。

ちょっと路線が外れているのではないかという違和感を感じながら聞いているんですけど、地域の学校に通うことができていない、困っている子どもたちが行く場所を、ここで大人が議論しているわけですね。

それこそ、子どもたちに、いくつかの選択肢なり、どんな場所だったらいいと思うって、子どもに聞けばどうかなと。

こういうときにこそ、子どもの声を集めなければいけないのではないかと思います。

もちろん高校の場所で、大人が見て、「いいよね、これは。視線も隠れているし、いいよね。」と私達がどれだけ納得していても、地域の学校に通えていない子が行く学校を作るわけですから、やはりそこは、もっともっと丁寧に、全員の子どもに聞けなくてもいいと思うので、子どもに寄り添って聞いたほうがいいのではないかと思います。

座長が、ヒューっ行って子どもに聞くの、すごく得意そうじゃないですか。

そんな感じで、子どもたちがどんな場所で学びたいだろうというのを聞けばいいのではないのでしょうか。

みんな違うこと言うと思いますよ。

違うこと言うけど、どこかに共通点は必ず見つかると思うんです。

そのあたりは、私達大人が、そっちの方向で動いてみませんか。

【荒井座長】

【C 委員】、よろしくお願いいたします。

【C 委員】

こども基本法ができて、子どもたちの意見表明権が認められました。

夢パークを作るときも、みんなで模造紙広げて、木の模型を立てて、「この辺に木を植えよう。」「この辺土山にしよう。」「この辺池にしよう。」とみんなで作ってきました。もう 20 年以上前ですが。

これからこの軽井沢町が肝いりで作る学びの多様化学校を、今【F 委員】がおっしゃったように子どもの声を聞かないで作ったら、やばいよね。

だから、当然そのワークショップはやられるんだろうと思っているんです。

ただ、ちょっと心配なのは、例えばこの間、伊那小学校を見させていただいたときに、69年前から通知表を廃止して、チャイムがないって話がありました。

でも、現在活動している高校の中でやるとしたら、チャイムとか校内放送が入ったりしないのかとか、さっき言った学校に行きたくても行けなかった子たちが、学校という建物の中で、トラウマのようになっている、「体育の時に罵声が飛んでくる。」とか「しっかりしろ。何やっているんだ。気を付け。」みたいな状態が聞こえてきてしまうようなところで安心して過ごせるんだろうかということ。

あと、伊那小学校で、学年の先生同士が職員室に戻るのではなくて、別の部屋で、「今度どんなことやろうか。」とか、「〇組の〇〇ちゃんこうだったよね。」みたいなのを語り合える環境が良いということを学んだんですが、そんな部屋はこの4教室の中に含まれているのか、教員用の特別ルームみたいなものは作れるのかとか。

僕らはフリースペースで活動していて、すごく音を出すんです。子どもたちが。楽器の演奏も好きだし。

いろんな楽器の演奏をしたくなった時に、音を出すのに他の授業を気にしなければならないような環境ではないのかとか。

あるいはさっき言ったように、校庭で煙をあげて、みんなで炭火で焼いて何かを食べようみたいなことができる環境なのかみたいな。

その辺りはどんな感じなのかということをお聞きできたらと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

炭火ができるかどうかということだけじゃないと思いますけども、どうでしょうか。

フレキシブルさという点で、もう少し情報をということですけど。

【宮本教育長】

もう少し情報をということですので、実際見ていただいて、いろいろなご意見いただければと思っているので、次回はそこ（軽井沢高校）で行い、どうでしょうかという意見を伺えればと考えています。

見ていただく中で、こうすればできるかもしれない・これじゃ無理だねとか、そんな意見をいただければというふうに思っています。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。
ではお願いいたします。

【Ⅰ 委員】

今、先生方からいろんなご意見をお伺いした中で、候補が今3つだけとなっていますけれども、ここは増える余地があるものなのでしょうか。

この3つの中から選ばざるをえないのでしょうか。
どちらになりますでしょうか。

【宮本教育長】

別にこの3つしかないという風に決めているわけではありませんけれども、第1回から出しているコンセプトの中で考えていくと、ということでお出ししています。

基本的には、これだけということを出しているわけではありませんけれども、そこでいろいろ見ていただいて、ご意見、あるいはアイデアとかを出していただくということを前提にしております。

【Ⅰ 委員】

ありがとうございます。
もし他の候補もあるようでしたら、次回資料をいただけたらと思っております。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今、教育長からありましたとおり、現時点での案を踏まえてということで、次回その場所（会場）にしておりますので、見ていただければと思います。

また、感覚は、子どもと我々でずれることがあるというふうな話ですので、ぜひ子どもとの対話も、ご意見をいただきましたので、検討したいと思っております。

●（５）スクールコンセプトについて

【荒井座長】

それでは、時間も迫ってきておりますので、（５）に移らせていただきたいと思います。

スクールコンセプトについて、こちらにも既に第３回設置準備会議の部分でもお出ししているところであります。改めて事務局から説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

はい。よろしく願いいたします。

33 ページ、【資料５－１】を見ていただければと思います。

これは、第１回設置準備会議のところでも出しています。

このスクールコンセプトを深めるという意味で、ご意見いただいたのが、34、35、36 ページにあります【資料５－２】です。

コンセプトに対する第１回設置準備会議のご意見だけじゃなくて、それ以降の第２回、第３回のところでいただいたご意見もまとめておりますので、34 ページをご覧くださいと思います。

コンセプトの１ 設置形態等の順番に従って作っております。

設置形態については、今お話ありましたけども、本校型・分校型の違いというものについて、学校の中に設置するのであれば、本校型も考えるべきじゃないかというご意見を前回のところでいただいておりますので、今後、場所も含めて本校型と分校型というものを整理しながら、最終的にどちらの形態がいいのかということを考えていきたいと思っています。

それと、その下の部分、設置する学校種については、中学校で設置したいと考えております。

２ 対象生徒については、先ほども少しお話しましたけども、学びの多様化学校に関しては、町内の中学生を想定していて、夜間中学に関しては広域も視野に入れていくというところ。

３ 設置場所については、今、話に出ましたので割愛して、35 ページの方にいっていただきますと、４ 学びの姿というところで、コンセプトに載っています「自分のペースで学ぶ」というのは、基本的には反対とか、あるいは方向性についての反対意見等いただいておりますので、そんな方向で進めていければなというふうに考えています。

また、次の「自分に合った時間帯で学ぶ」というところも、いろんなご意見をいただいておりますが、学びの多様化学校と夜間中学の併設というのが元々のコンセプトにあるオープンドアスクールですので、そのいいところを融合しながら作っていききたいというふうに考えています。

36 ページのところの、５ 生活の姿、あるいは６ 教職員というところも、基本的にはスクールコンセプトを実現するためということで様々なご意見をいただいているところでありま

す。

6 教職員について、先生方が配置されるわけですがけれども、これについて、配置するのは基本的には県教育委員会がするので、その部分をどう考えていくのかということも、これから検討していく課題になっております。

ということで、【資料5－1】のスクールコンセプトを見ていただき、基本的にこのコンセプトを生かしながら、次回はこういう抽象的なことではなくて、一步進んで、学校の募集パンフレットのような形にして、例えば、学ぶ時間とか、あるいは教育課程とか、そういったことも入れながら、もう少し具体的なお話をさせていただければというふうに考えていますので、そういったところに載せるべきものは何かということをご議論いただきながら、ご意見いただければと思います。

よろしくお願いします。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ただいま、【資料5－1】から【資料5－2】まで説明いただきました。

いかがでしょうか。

では、【B委員】お願いします。

【B委員】

はい、しつこくてすいません。

先ほどの実数を見ると、令和5年の不登校者数が、中学生44人ということなので、こちら1学年10人であれば、30名の子が対象になるということで、かなりの割合を教えるということなのかなというふうにお見受けしたんですけれども、きっと他の地域の学びの多様化学校および素敵なフリースクールなどができると起きていることと同じで、近隣エリアもしくは遠くからそこに行きたいから、転入するという方も増えてくることが考えられます。

そうすると、現状不登校の子どもたちにとって、本当にここが選択肢になるのかというところがすごく心配です。

なので、提案はしますが、リソースの問題もあるので絶対無理かもしれないんですけど、先ほどの、すごく頑張っておられる教育支援センターの方々を支えるような形と、この学びの多様化学校が何かコンセプトを同じくするようなマネジメント形態といいますか、そんなふうになっていけないかなというふうに思っております。

というのは、ご存知の方も多いと思うんですけど、次の学習指導要領から柔軟な教育課程が運用されるということで、教育支援センターが不登校の子ども達の今の学力の現在地に沿って、その子の教育課程をプログラムして、教育支援センターがそこをサポートして、教育支援センターで学ぶことに成績をつけていくような学びへと変えていくというようなことが、文科省の

会議で検討されているんですけども、とても教育支援センターでそれを担うのは無理というリソース状況だと思う中で、やはり誰1人取り残さないためにも、このオープンドアスクールが、教育支援センターとも連携を図りながら、入学はしないが、オープンドアスクールの中で支援を受けているみたいな状況になるような、そういう、結果的にオープンドアスクールだけでなく、オープンドアスクールと現状の教育支援センターと、その他新たな取り組みが、令和5年でいうと小学生52名、中学生47名、そして移住してくるだろう方々全体をサポートできているという状態になっていくような、そんな場所になると本当に全国でもそういった事例はないと思っているので、そうなるといいなというふうに思いました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。
では、【G委員】お願いします。

【G委員】

【資料5－1】スクールコンセプトの2 対象生徒の2つ目の点に、中学校形式卒業生や中学校未就学者ということを書いてあるのですが、文科省は形式卒業生という言い方をせず、「入学希望既卒者」という言い方をしています。

でも、その言葉を使えということではなくて、形式卒業生とか未就学者だけではなく、学齢経過者の中で様々な理由により小中学校で十分に学ぶことができなかった方という言い方はできないのでしょうか。

不登校だけではなくて、もしかしたら病気で学ぶことができなかった人もいるだろうし、毎日学校に行っているけど、発達障害等により、学校の配慮不足で授業を聞いていても何もわからなかったという子も中にはいるかと思うんです。

だから、ほぼ毎日通っていたとしても、その人がもう一度中学校生活を、中学校の内容の勉強をやり直したいというのであれば、そういう方も対象にしてはどうかと思うんです。

その辺で、この書き方を変えていただいた方がいいかと思います。

【荒井座長】

ありがとうございました。
他にはいかがでしょうか。
では、【A委員】お願いいたします。

【A委員】

まとめじゃないんですけども、最後の質問・お願いみたいなもので、この取り組みは、オープンドアスクールを作るのと、今ある学校を改善という言い方は失礼かもしれませんが、よりよくして、不登校者の数を減らすことであり、減らしたうえで、それでも変えられなかった、

例えば強い発達特性があったり、身体的特性があったり、そういう子がオープンドアスクールに行くという最後の砦みたいな話っていうような考え方をしていました。

今たくさんいる不登校の方を全部引き受けることは、ここでは無理みたいな意見が出ましたけども、そうじゃなくて、まず全体として不登校者数を減らして、その上でどうしても通えない子をオープンドアスクールで支援するというようなコンセプトの理解でよろしいでしょうか。

【宮本教育長】

はい。今の、「私たちの学校」づくりの取り組みというのは、基本的には両面で考えているので、場合によっては、中学校の不登校がいなくなり、オープンドアスクールがいらなくなるということも、現実的には難しいかもしれませんが、あり得るという前提で考えています。

したがって、このオープンドアスクールというのは、作るということは目的なんですけども、それ（オープンドアスクール）がない方が本当はいいだろうというのが、今の本当のところの目的というふうに考えていただければいいかと思っています。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では、【J委員】お願いいたします。

【J委員】

とても単純なことを聞いて申し訳ないんですけども、軽井沢中学校の分校として設置する点になりますと、軽井沢中学校の教育理念というものも、そのままオープンドアスクールに引き継がれていくんでしょうか。

例えば、学校の宣伝というとおかしいですけども、公共に出すときに、そういった教育理念とかも載せていくんでしょうか。

【宮本教育長】

最初の方にお話したように、基本的にオープンドアスクールとは、別の学校、別の仕組みでやっているんで、その理念をどうするかとことですが、分校として作るのであれば、中学校とももちろん関わりがありますけれども、基本的には、そこで行われる教育課程も違いますし、そこで考えられる理念ももちろん違ってくるということでもあります。

ただし、今申し上げたように、理念が違うといいますか、理念を同じようにして進めていくということですね。軽井沢中学校もオープンドアスクールも。

そういう意味で言えば同じです。

【荒井座長】

よろしいでしょうか

ありがとうございます。

そろそろ時間迫ってまいりましたが、いかがでしょうか

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

●（６）その他

【荒井座長】

それでは、その他ということで、事務局の方からはいかがでしょうか。
大丈夫でしょうか。

では【G委員】、お願いいたします。

【G委員】

今、実は学びの多様化学校全国研究協議会というのを立ち上げようとしています。

学びの多様化学校の呼びかけ校を中心に、私立も、公立も一緒になって、今全国に 58 校ある学びの多様化学校にできるだけ加盟していただいて、そこで実践されている特徴的な取り組みや課題も含めて、情報交換することと、その取り組みを多様化学校だけで完結するのではなく、全国のいわゆる一般校にも普遍化していきたいということです。これはオープンドアスクールの理念と共通するところだと思うのですが、それを全国版でやっていこうというようなことを考えております。

9月26日にその説明会がありました。

10月31日午後からフォーラムを行います。

略称は「まなたよ協議会」といいます。

今後、軽井沢町も加盟・入会していただいて、全国の状況を把握していただく中でいろんな取り組みを参考にしていただければと思っております。

まずは、10月31日のフォーラムにも参加していただければと思います。オンラインでも参加可能ですので、ぜひ参加いただければありがたいというお知らせです。

【荒井座長】

ありがとうございました。

また委員の皆様にも、情報共有できればと思っていますので、よろしくお願いします。

用意させていただいた内容、以上になります。

設置場所について、今回一步踏み込んでご提案させていただいている部分がありますので、次回はその場所をご覧いただければと思います。

また、子どもたちとのコミュニケーションということで、座長の立場としてできることをしていきたいと思っています。

次回、募集要項とか教育課程についても事務局の方で可能な限り準備いただけるということで、またご意見いただけたらと思っております。

では、以上で終わりにさせていただきますので、事務局の方にお戻しします。
ご協力ありがとうございました。

● 5. その他

【岩井こども教育課長】

はい。

荒井座長、委員の皆様、ありがとうございました。

5. その他について、事務局より説明いたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

先ほども少し触れましたが、次回、第5回設置準備会議につきまして、次第に記載のとおり、令和7年10月30日（木曜日）15時からの2時間ということで、場所を軽井沢高等学校でお願いしたいと思います。

委員の皆様におかれましては、また出欠確認ということで、事前に事務局より詳細を配布いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

【岩井こども教育課長】

ただいま説明がありました、次回の第5回設置準備会議は軽井沢高等学校となります。

先ほど来から議題にも上がっていますので、会議終了後約20分間で、委員の皆様に校舎等を見学していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、次回会議の出席確認は、先ほど事務局より申しましたとおり後日通知したいと思います。

● 6. 閉 会

【岩井こども教育課長】

以上をもちまして、第4回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を終了いたします。

皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。